

南武社長

野村 和史さん

悩み? 聞くよ!

〜東京、東大阪の7人が答える〜

(パート2)

81歳になった社長が辞めようとしません。最近やっと交代をほのめかすようにはなったのですが、依然、やる気満々です。(匿名希望)

知り合いの会社では、95歳の社長がようやく80歳の専務に譲って「君はまだ若いんだからがんばりなさい」って言ったそうです。生きているうちにバトンタッチできてよかったですね。

うちのおやじは84歳で亡くなるまで社長を譲ろうとしませんでした。最後は病室に毎夕、幹部を集めて報告を聞いていました。病室に冷蔵庫を持ち込み、みんなまでビールまで飲んでいた



高齢の社長が辞めません

ものです。

しかし、日進月歩で世の中が変化する現在、高齢の社長では変化についていけません。若い人の考え方に対して常にネガティブで、せっかくのアイデアをつぶしてしまおう。問題点を直訴した社員に「ご苦労さん。帰っていいよ」と取り合わない。会長に退いたふりをして院政を敷き、イエスマンの社長が思い通りに動かないとすぐに切る。こんな経営者は老害というものです。

なぜそんなことになるのでしょうか。うちのおやじは「おれが辞めると会社がつぶれる」と考えていました。無理もないところもあります。展望のない中、一人で必死に中小企業を経営し、かわいがってきた社員に辞められ、信頼していた取引先には裏切られる。だから独裁的な経営者ほど人間不信なところがあり、自分の信念が正義で、これに反対する者はすべて悪と判断するのです。

おやじがいなければ今の南武はありません。おやじにはおやじの尊厳がありました。でも、私は57歳で社長を継いでから、人間尊重の経営を心がけています。社員の働く環境を整え、十分な給与を支払い、経営情報を社員と共有する。経営者は社員の話聞き、ボトムアップで会社を活性化しないとはいけません。私はもうすぐ68歳。みんなに「おれが辞めた方が会社は伸びる」と言ってます。

(次の回答者は東大阪のクラスターテクノロジーの安達稔社長です。このコーナーへの感想、回答者への質問はj020003@tky.nikkan.co.jpまで)

人間尊重の経営を

のむら・かずし 青山学院大卒、父が創業した南武に1961年(昭36)入社するも会社が火事全焼、外資系商社で活躍。84年に復帰し95年社長。67歳。

モノづくり